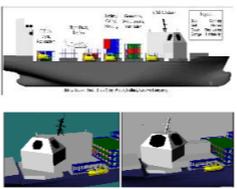
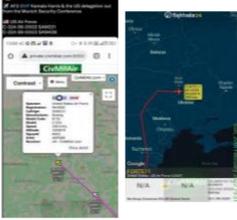
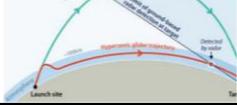
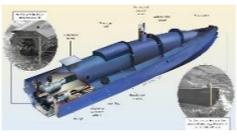
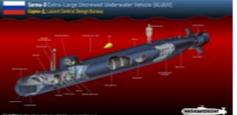
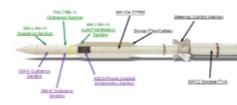


整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -149	2017/1/1	Aegis Ashore Afloat (AAA)	同左	2017 Design Symposium /MIT Naval Construction and Engineering 2017/1/1	 米国MIT学生(ただし海軍士官)のイージスアショア搭載船に関する論文を見つけました。コンテナ船にイージスアショアを搭載し、必要な装備はコンテナモジュール化して搭載するプランです。これなら船体は数十億、それにイージスアショア関連装置を取り付けるだけで済みます。2万トンの巨大船を建造する必要はありません。日本もあまり欲張るべきではないでしょう。	佐々木司
2022 -150	2022/10/1	Sailor found not guilty of Bonhomme Richard arson	「ボノム・リシャール」放火容疑の水兵が無罪に	NavyTimes 2022/10/1	 「ボノム・リシャール」火災で放火犯として起訴された水兵が無罪判決になったというニュースです。証言をした水兵の誣告罪は問われないのでしょうか？	岩崎洋一
2022 -151	2022/9/1	Twitter Trackers Jeopardize Military Aircraft	ツイッター・トラッカーは軍用機に危険をもたらす	Proceedings 2022/9/1	 ツイッターを使って軍用機の位置が把握できるという話です。プロシーディングス誌9月号から。	岩崎洋一
2022 -152	2022/10/3	Hypersonic Missile Defense: Issues for Congress	極超音速ミサイル防衛: 議会への問題提起	Congressional Research Service 2022/10/3	 極超音速ミサイルの防衛に関する米国議会調査局レポートの最新版要約です。 https://sgp.fas.org/crs/weapons/IF11623.pdf	岩崎洋一
2022 -153	2022/10/1	Lessons from Russian Missile Performance in Ukraine	ウクライナにおけるロシアのミサイル性能の教訓	Proceedings 2022/10/1	 ウクライナへのロシア側ミサイル攻撃で、攻撃地点の意味合いや政治的メッセージなど、ワイドショーで専門家がしたり顔で「わざと外してゼレンスキーを脅かしている」などと話していますが、この論説を見る限りロシア製対地ミサイルの精度は極めて粗く、核弾頭を搭載して初めて意味を持つことが分かります。プロシーディングス誌10月号から。	岩崎洋一
2022 -154	2022/10/1	Repairing Submarine Cables Is a Wartime Necessity	戦時下の海底ケーブル修理は必須だ	Proceedings 2022/10/1	 重要インフラである天然ガス海底パイプライン(ノードストリーム)の破損が生じましたが、戦時においてライフライン維持は重要な課題です。この論文はその意味で注目に値すると思います。海底ケーブルの敷設や修理は国家安全保障施策として考え、ケーブル船は他国に依存せず、米国船籍で米国人乗員とすべきという主張です。ただ、米国でさえ、海底ケーブルの所掌は運輸省のため、予算確保に苦労している模様です。	清水隆
2022 -155	2022/10/11	Suspected Ukrainian Explosive Sea Drone Made From Recreational Watercraft Parts	ウクライナのもとの疑わしき海洋ドローンは娯楽用水上艇の部品でできていた	USNI Times 2022/10/11	 9月末にクリミア半島Sevastopol海軍基地近傍の海岸に打ち上げられたドローンの写真から軍事専門家がその機能等について分析しています。SNSに投稿されたわずかな写真からここまで分析できるとは感心します。私もこのレベルまで上達したいものです。しかしこのドローンのせいでロシア海軍黒海艦隊の行動が大きく制約を受けていることは知りませんでした。	佐々木司
2022 -156	2022/10/13	Russia's answer to the U.S. Navy's Orca XLUUV: Sarma-D	米海軍のオルカXLUUVに対するロシアの答え: Sarma-D	Naval News 2022/10/13	 航続距離が10,000km、真偽不明ですが、移動ハイドロフォンと考えると、費用対効果は非常に良いと考えます。センサー・ノードとして有効ではないでしょうか。	川原梅三郎

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -157	2022/10/1	The Surface Fleet Needs EDOs	水上艦隊に、EDO(技術幹部)が必要だ	Proceedings 2022/10/1	 この記事でいうEDO(技術幹部)とは、艦船の造修業務(艦船の建造、維持整備及び除籍までの業務)に精通し、かつ調達業務を理解する幹部(海自でいう装備幹部)と思いますが、米海軍艦船の維持整備が効率的かつ効果的に行われていない理由として、著者の海軍中佐は、維持整備管理を担当する個艦の士官の配置が副次的なもので、かつ艦船造修の専門家ではないため、維持整備に対する実効責任は担っているが成果責任をとっていないことを挙げ、従ってEDOを乗艦させ改善すべきという意見です。	清水隆
2022 -158	2022/10/10	In focus: The Power Improvement Project for the Royal Navy's Type 45 destroyers	焦点: 英海軍の Type 45駆逐艦の出力向上計画	Navy Lookout 2022/10/10	 本記事には、単なるType 45の出力向上計画の詳細だけではなく、英海軍の一連の艦船計画に関する、率直かつ猛烈な反省と教訓が記されています。第一の教訓は、艦船の電源計画・設計上の考慮事項として、正確な電力所要見積りと高信頼性機関の選択が極めて重要であること、第二の教訓としては、維持整備に対する極端な契約形態は、乗員の維持・整備能力や艦船の稼働率の低下を招くこと、などが挙げられています。何れも、非常に貴重な教訓かと思えます。第一の教訓は純粋に技術的な内容ですが、第二の教訓は戦闘艦の乗員と装備への根本的な考え方に関わる内容であり、大変難しい判断が求められる問題です。これは以前ご紹介した、ノルウェー海軍の艦船事故の教訓にも共通する事項かと思えます。	本山泰之
2022 -159	2022/10/17	Germany's K130 Batch 2 Corvette Program 2 Years Behind Schedule	ドイツのK130 Batch2コルベット計画が予定より2年後ろ倒しに	Naval News 2022/10/17	 ドイツの新型コルベット建造が指揮管制(C2)システムの課題で暗礁に乗り上げているようです。原因はC2システム受注業者の責任なすりあいとウクライナ侵攻を受け、契約後にドイツ国防省がITスタンダードを改訂してしまったことにあるようです。「契約後の規則改正」を業者が遅延の言い訳に活用しているような気もしますが・・・昔LCAC調達時似たようなことがあったような。	佐々木司
2022 -160	2022/10/14	Major defects found on South Korea's Type 214 Submarine Fleet	韓国の214型潜水艦隊で発見された大きな欠陥	Naval News 2022/10/14	 韓国潜水艦の運行状況を推測できる記事です。推進電動機用のインバータ関連に課題を抱えているというもの。原因は不明ですが、高分子材料のケーブル(電線)を甘く見てはいけないということでしょうか。使用の環境条件に適合し、品質の高い製品が重要ということだと思います。	清水隆
2022 -161	2022/10/20	Japan Set to Buy SM-6s in Potential \$450M Deal, Says State Department	日本がSM-6を4億5千万ドルで購入と米国務省が発表	USNI Times 2022/10/20	 日本がSM-6を32発購入することを米議会が承認したというニュースです。今のレートで1発21億円です。巻末に、イージスBMD・フライト・テストの実績テーブル(CRSレポートから)を参考添付します。	岩崎洋一
2022 -162	2022/9/13	UPDATED: Commission Recommends Renaming Two Navy Ships with Confederate Ties	最新ニュース: 委員会は南部連合と関係のある2隻の艦船の名称変更を勧告	USNI Times 2022/9/13	 Black Lives Matterから始まった人種差別撤廃運動は、奴隷制を維持しようとした南部連合にもその矛先が向けられ、バイデン大統領によって、南軍に関係する名称はすべて米軍から一掃されようとしています。	岩崎洋一
2022 -163	2022/10/19	Saab Kockums Builds New Processes, Skills, And Capabilities In Delivering A26	A26引き渡しのためにSaab Kockumsは新たなプロセス、技量及び能力を築く	Naval News 2022/10/19	 スウェーデン海軍のA26級潜水艦の建造が軌道に乗りそうです。ドイツのtkMSの傘下にあったKockumsをSaabが買収して国内建造体制を強化したことにより、それが可能となったようです。KockumsのKarlskrona造船所はスウェーデン国内唯一の潜水艦製造拠点であり、特異な形状のVisbyもここで建造されています。現役時代に出張しましたが風光明媚な所でした。	佐々木司

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -164	2022/10/20	Taking Defence To New Depths	防衛は新たな深度へ	Naval News 2022/10/20	 <p>本年9月、バルチック海においてノルドストリームのパイプラインが破損した事故は、欧州各国に海底における防衛所要を高めるきっかけとなっているようです。深海に設置した国家インフラを敵の攻撃から防御するため、UUVが注目されています。我が国においても通信ケーブルなど重要な国家インフラが海底にあるので他人事ではありません。</p>	佐々木司
2022 -165	2022/8/31	Australian submariners to join Royal Navy crews as UK and Australia deepen defence ties through AUKUS agreement	英国と豪州がAUKUS協定を通じて防衛関係を深める中、豪州の潜水艦乗員が英海軍の乗員に加わる	GOV.UK 2022/8/31	 <p>AUKUS協定に関連する原子力潜水艦の情報は、最近少ないと思っていましたが、8月に進展がありました。本記事は、その際の英政府の発表です。英攻撃原潜であるAstute 級潜水艦5番艦HMS Ansonの就役式に、豪副首相が出席し、豪海軍潜水艦乗員が同艦に乗艦し、訓練すると発表されました。すでに米英での豪乗員の原子力教育・訓練への受入れは開始されているとのことですが、一歩踏み込んだ段階に進展したと思います。そして、やはり、豪州が導入する潜水艦は、英国由来になる可能性が濃厚になったと思われます。</p>	本山泰之